

第5回県立病院機能のあり方検討会（議事概要）

1 会議名称

県立病院機能のあり方検討会

2 開催日時

令和7年11月21日（金）14時00分から15時15分

3 場所

神奈川県庁西庁舎8階 健康医療局会議室1（オンライン併用）

4 出席者

【委員】

氏名	職等
井上 貴裕	千葉大学医学部附属病院 副病院長／ 病院経営管理学研究センター長
小松 幹一郎	公益社団法人神奈川県医師会 理事
伏見 清秀（座長）	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 教授
本館 教子	公益社団法人神奈川県看護協会 会長
吉田 勝明	公益社団法人神奈川県病院協会 会長

【オブザーバー】

氏名	職等
阿南 英明	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 理事長

5 会議の議題

- (1) これまでの議論のまとめ（各病院）
- (2) 県立病院間の連携等について
- (3) 検討会報告書の構成について

6 会議の結果（概要）

- (1) これまでの議論のまとめ（各病院）

① 全体について

＜委員からの主な意見＞

- ・ 県立病院の役割を考えるにあたり、高度専門性があり、かつ高齢者の入院に対応できるスキルがなければ、受け皿が狭い病院になってしまう。どの病院も高齢者の合併症や認知症への対応は必須であり、高度専門性に特化しているだけでは駄目だということを強調していただきたい。

② 各病院について

＜委員からの主な意見＞

○ 足柄上病院

- ・ 「小田原市立病院と一体となって県西地域の基幹的役割を担う」という部分について、高度急性期や専門性の高い医療は小田原市立病院、高齢者の救急や医療は足柄上病院が担うなど、役割分担や機能連携をもう少し具体的に記載してもよいのではないか。
- ・ 訪問看護ステーションが少ない地域であることから、足柄上病院を中心となって、地域で切れ目のない在宅医療の連携体制を構築するリーダー的存在になる必要があるのではないか。

○ こども医療センター

- ・ 過去の医療事故に際し、メディカルスタッフのアセスメント能力等が指摘されているので、「急変時対応」と「より高度な実践力を持つ医療人材の育成の必要性」なども記載したらどうか。

○ がんセンター

- ・ 今後も治療を継続しながら社会復帰をする人たちが増えるので、両立支援のさらなる加速・充実といった、ケアの視点も記載したらどうか。

○ 循環器呼吸器病センター

- ・ 循環器分野は循環器呼吸器病センターの周囲で積極的に行っている病院も多い。一方、同センターの呼吸器分野、特に間質性肺炎等は全国的に知名度も高く、こうした機能については、病床規模や場所、別の県立の病院との統合が可能か等の検討が必要ではないか。
- ・ 結核は、県立病院が担った方が良いという考え方もあるが、病院機構内の再編が難しければ、国公立や公的病院等との連携や役割分担も含めて検討する必要がある。

○ 精神医療センター

- ・ 摂食障害や知的障害など、一般の診療所等での診療が難しい、精神的なケアが必要な患者への対応もお願いしたい。
- ・ 一般病床では身体拘束が減算される診療報酬制度も始まっており、精神医療センターにおいて、患者の人格を尊重したケアを推進するための人員配置の再検討等も記載してほしい。

(2) 県立病院間の連携等について

① 病院間連携の強化

＜委員からの主な意見＞

- ・ 放射線や病理診断の集約化など、病院が連携するための医療DXは積極的に進めてほしい。一方、病院間での連携は難しく時間もかかる。デジタルシステムの共通化や新規導入については、コストやスケジュール、具体的な運用のユースケース等をきちんと検討し、慎重かつ実効性のあるものを考えていくことが重要。

- ・ こども医療センターと精神医療センターについては、発達障害や先天性疾患に伴う精神症状など、共通する部分が多いので、連携を強化してほしい。
- ・ 県立病院間だけでなく、それ以外の医療機関、特に地域との連携が重要と思うが、県立病院間の連携については、機能を補完するという目的を明確にし、互いの弱点を補うような形で仕組みを作るのであれば意義がある。

② 人材の確保と育成

＜委員からの主な意見＞

- ・ 人材の確保・育成については、採用から人事も含めた形で、例えば県立病院間でローテーションし、キャリアアップができるなど、幅広い人材活用・人材育成ができる仕組みを目指してほしい。
- ・ 医師については、病院の種類が多く、研修の場所が多いというメリットもあるので、そうした研修プログラムを充実させる方向性が重要。
- ・ 病院経営において事務職の役割は非常に大きいが、公立の医療機関では養成、教育が充実していないところが多い。医療に興味のある人材を積極的に採用して、どう育成していくかが大事である。

(3) 検討会報告書の構成について

＜委員からの主な意見＞

- ・ 県立病院の役割として、民間で補いきれない部分や、政策上の非採算部門を一定程度担うことがあるので、そのことが具体的に分かるような記載が必要。
- ・ 県立病院の現状や病床規模、収支状況等を検討することは、病院機構の内部だけでなく、地域の中で各病院が置かれている役割や、地域との関係性などにも影響を及ぼす。県立病院は非常にインパクトのある存在なので、報告書の中で、「新たな地域医療構想」との整合性等も含め、地域との関係についても触れてほしい。

(4) 意見を踏まえた今後の対応

第7回の議論に反映する。

7 次回の開催

令和7年12月24日